

リモートコントロール ユニット

取扱説明書

RMU-01

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよく読みのうえ、**
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

DWX
DIGITAL WIRELESS

 **Cross Remote**

安全のために

ソニー製品は安全に充分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

5 年に 1 度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、破損したときは



- ① AC アダプターや LAN ケーブルを抜く。
- ② お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

炎が出たら



AC アダプターや LAN ケーブルを抜き、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示

目次

⚠ 警告	4	使用上のご注意	27
⚠ 注意	5	電源供給に関するご注意	27
その他の安全上のご注意	6	設置上のご注意	27
本機の概要	7	運用上のご注意	27
各部の名称と働き	8	使用・保管場所	27
NT リモート機能を活用する		お手入れ	27
ために	9	主な仕様	29
取り付け	12	保証書とアフターサービス	30
マイクロホンスタンドに取り		保証書	30
付ける	12	アフターサービス	30
壁面に取り付ける	13		
キャットウォーク、ポール、照明			
ボタンなどに取り付ける	14		
運用の準備	15		
RMU-01 セットアップツールの			
使いかた	15		
準備	16		
起動と終了	17		
各部の名称と働き	18		
ネットワーク内の RMU-01 を自動			
検出する	19		
本機の設定を変更する	20		
オプション機能	22		
電源および各機器との接続	23		
PoE 機器から電源を供給する	23		
AC アダプターから電源を供給			
する	24		
故障かなと思ったら	25		
本機の状態と POWER インジケー			
ターの点灯・点滅について	26		



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

雨のあたる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所やこの取扱説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードや接続コードを傷つけない

電源コードや接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



禁止

ぶら下がったり足場がわりにしない

壊れたり倒れたりして、本機の破損やけがの原因となります。



禁止

高温下では使用しない

高温の場所で本機を使用すると、火災、発火、発煙の原因となることがあります。



分解禁止

分解や改造しない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。

内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災の原因となります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機が接続されている電源供給機器の電源を切り、DC 電源ケーブルや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



指示

お手入れの際は、電源を切る

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



指示

指定の電源を使用する

付属の AC アダプターまたは IEEE802.3af 準拠の PoE ハブや給電器をお使いください。

指定以外の製品とのご使用は、火災の原因となります。

⚠ 注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



指示

指定された電源コードを使用する

指定以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。



指示

設置は専門の工事業者に依頼する

設置については、必ずお買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

壁面や天井などへの設置は、本機と取り付け金具を含む重量に充分耐えられる強度があることをお確かめください。十分な強度がないと、落下して大けがの原因となります。

また、一年に一度は、取り付けがゆるんでいないかどうかを点検してください。



指示

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。



指示

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。充分注意して接続・配置してください。



指示

移動の際は電源コードや接続コードを抜く

コード類を接続したまま本機を移動させると、コードに傷がついて火災や感電の原因となることがあります。

その他の安全上のご注意

警告

本機は電源スイッチを備えていません。設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。

万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

注意

日本国内で使用する電源コードセットは、電気用品安全法で定める基準を満足した承認品が要求されます。ソニー推奨の電源コードセットをご使用ください。

本機の概要

RMU-01 は、ソニーワイヤレスマイクロホンシステムのネットワークリモートコントロール（以下、NT リモート）に使用するリモートコントロールユニットです。

- 本機をLAN接続して任意の場所に設置することでトランスミッターのリモートコントロールが可能になり、1つのシステムで82台までのトランスミッターの使用を可能とする NT リモートシステムの運用利便性が向上します。本機は1つのシステムに9台まで接続可能です。
- 電源は PoE (Power over Ethernet) に対応しており、長距離の LAN 配線が容易になります。また付属の AC アダプターからも供給可能です。
- 本機は 1/4 波長モノポールアンテナを内蔵しており、突起部の少ない堅牢性を考慮した構造です。また目立たず設置場所に調和するデザインとなっています。マイクスタンドへの取り付けが可能であるほか、付属のブラケット（取付金具）を用いて壁面、ポール、照明ボタンやキャットウォークなどへの設置にも対応しています。

ご注意

- 本機の台数を増やしても、使用可能なトランスミッターの台数は増えません。本機の台数にかかわらず、1つのシステムあたり 82 台が上限です。

◆ 設置場所、設置間隔、使用するケーブル類について詳しくは、「使用上のご注意」（27 ページ）をご覧ください。

- PoE ハブおよび PoE 給電器は、市販のものを別途ご購入ください。

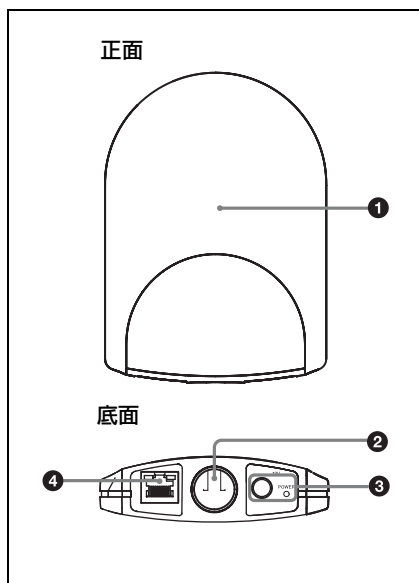
◆ レシーバー、PoE 機器、ハブなどとの接続について詳しくは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

PoE (Power over Ethernet) とは・・・

LAN に使用するイーサネットケーブルで電源供給する技術です。通信ケーブルと電源ケーブルを1本にまとめることができるため、電力供給の困難な場所での運用が容易になります。

本機は IEEE802.3af に準拠した PoE 対応ハブと接続して電源供給を受けたり、または通常のハブと本機の間 PoE 給電器をはさんで電源供給を受けることが可能です。

各部の名称と働き



① アンテナ 格納部

② マイクロホンスタンド取り付け用 穴

マイクロホンスタンド (PF 1/2 ねじ規格) に取り付けることができます。
NS 5/8 インチ規格または W 3/8 インチ規格のマイクロホンスタンドに取り付ける場合は、付属のねじアダプターを使用してください。

③ ACアダプター端子とPOWERインジケーター

付属の AC アダプターを AC アダプター端子に接続して、本機に電源を供給することができます。

AC アダプター端子または LAN 端子から本機に電源が供給されているとき、POWER インジケーターが緑色に点灯します。

◆ 本機への電源供給について詳しくは、「電源および各機器との接続」(23 ページ) をご覧ください。

④ LAN 端子 (RJ-45)

10Base-T/100Base-TX 方式のネットワーク接続用端子です。通信速度は、接続先の機器に合わせて自動的に切り替わります。

DWR-R01D などのレシーバー、Windows パソコン、ハブなどと接続します。

PoE 給電可能なハブや給電器と接続した場合には、この端子を通して電源供給を受けます。

ご注意

- 安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクタをこの端子に接続しないでください。
接続については本書の指示に従ってください。
- LAN 端子に直接手で触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。

NT リモート機能を 活用するために

NT リモート機能を有効にかつ安定して運用するために、以下の点にご注意ください。

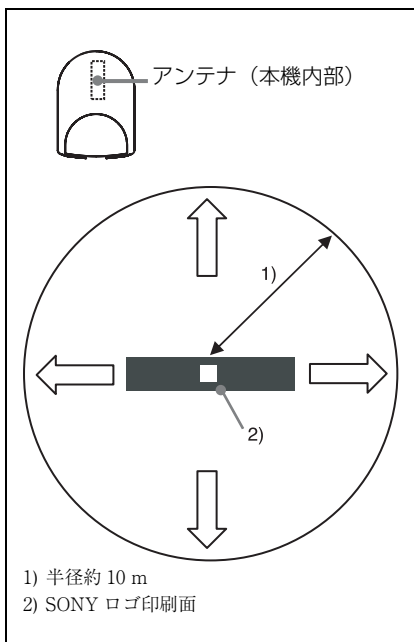
- 2.4GHz 帯の電波には、直進性が強く、回り込みにくい性質があります。本機とトランスミッターの間が人や物などの障害物に遮られると受信電波の強度が急激に低下しますので、できるだけワイヤレスマイクロホンやトランスミッターから直視できる位置に本機を設置することをおすすめします。
- 障害物による遮蔽を避け、2.4GHz 帯の電波の安定した伝送を確保するためには、本機を最低でも 2 台設置して運用することをおすすめします。複数台を使用する場合、設置する間隔は 10 m ～ 20 m 程度を目安としてください。
- 本機は 1 つのシステムに 9 台まで接続可能です。電波が遮蔽されやすいなど、運用環境が不利な条件である場合には、必要に応じて台数の追加をご検討ください。
- 屋外では壁面や床面などでの反射が期待できず、屋内よりも使用できる範囲が狭くなる傾向があります。屋外では、電波の伝搬距離を短くするため、できるだけトランスミッターの高さと同じになるように本機を設置してください。
- あらゆる環境において、本機を縦置きする（端子のある面を下に向ける）ことで、内蔵アンテナは効率良く機能します。ただし、屋内で天井付近に設置

する場合のみは横置きする（SONY ロゴを下向きにする）方が有利となります。

- 電波伝搬の状態は設置される場所の建造物の構造や材質などに依存し、それぞれの設置環境ごとによって変わってきます。ワイヤレスリモートコントロールコンディションレベル表示（2.4GHz 無線信号の品質を示します。詳しくは、ワイヤレスマイクロホン、トランスミッターやレシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。）の値が常に  または  で安定することを目安に、あらかじめ実運用でご確認のうえ設置することをおすすめします。
- 複数台からなるカバーエリアを重ねて面積を広くした場合、トランスミッターがある RMU-01 から別の RMU-01 に接続を変更する動作（ローミング）が発生します。カバーエリア同士が完全に隣接していて抜け落ちた領域がない状況でも、このローミングが発生する際にはトランスミッターとレシーバーの接続は必ず切断されます。接続の切断は、数秒程度にわたって継続する場合があることをご了承ください。

内蔵アンテナの特性について

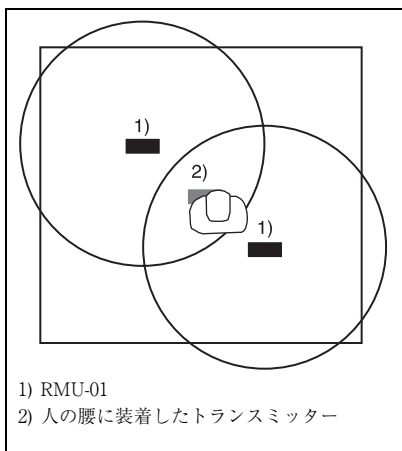
アンテナはケースの中に収まっていて、アンテナの軸を中心に同心円状に電波を強く放射する特性を持ちます。この方向にトランスミッターを置くのが有利に運用するポイントです。



電波が強く放射される半径はアンテナを中心に 10 m 程度ですので、複数台設置の場合はこの円が重なるように設置するようにしてください。

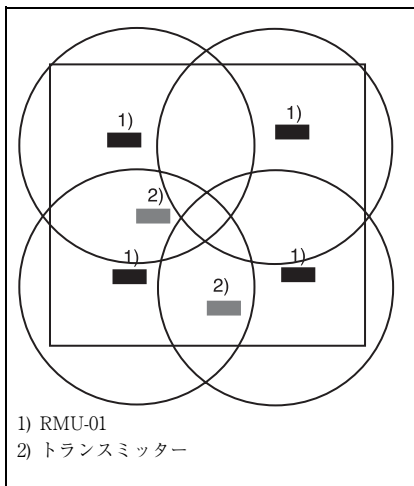
設置例 1（平面図）

ある場所に本機を 2 台設置して、人の腰に装着したボディパックトランスミッターを制御する場合は、常にトランスミッターが人体によって遮蔽されず直視できる位置で運用できるよう、対角に配置することをおすすめします。



設置例 2（平面図）

複数台からなるカバーエリアを重ねて面積を広くする場合は、10 m の円が重なり合い、抜け落ちたエリアがないようにするのが安定運用のポイントです。

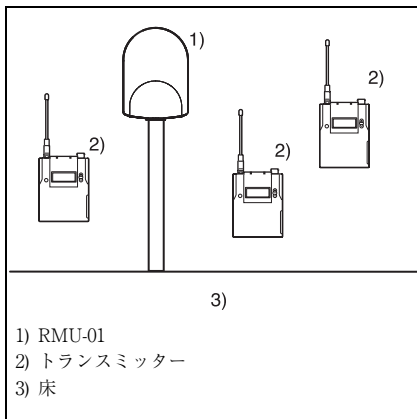


設置例 3（断面図）

マイクスタンドに設置する場合の例です。

屋内の場合：壁面、床や天井による反射の効果があるので、高さについてはとくに条件はありません。

屋外の場合：できるだけトランスミッターと同じ高さに設置してください。

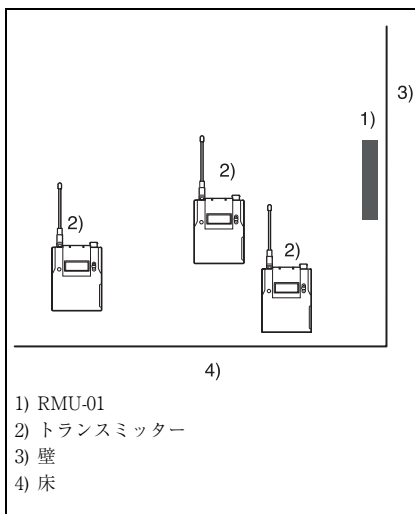


設置例 4（断面図）

壁面に設置する場合の例です。

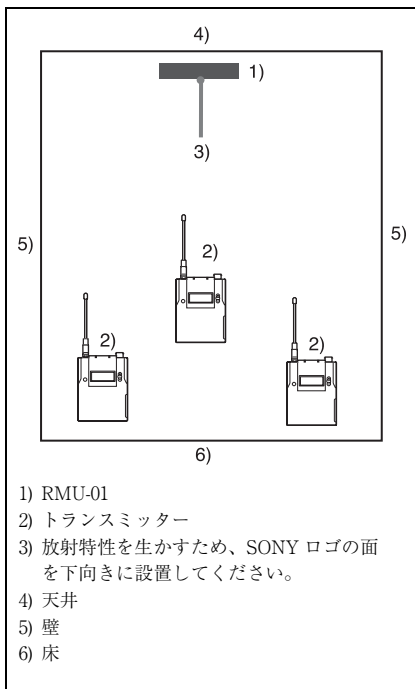
屋内の場合：壁面、床や天井による反射の効果があるので、高さについてはとくに条件はありません。

屋外の場合：できるだけトランスミッターと同じ高さに設置してください。



設置例 5（断面図）

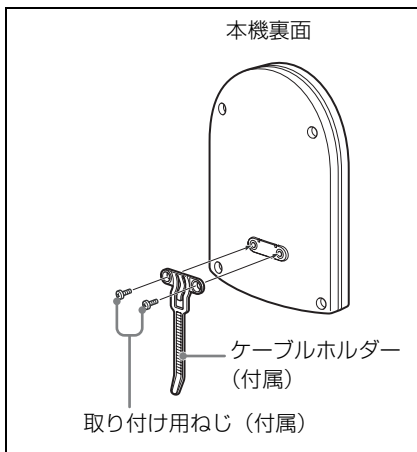
屋内で天井近くに設置する場合の例です。



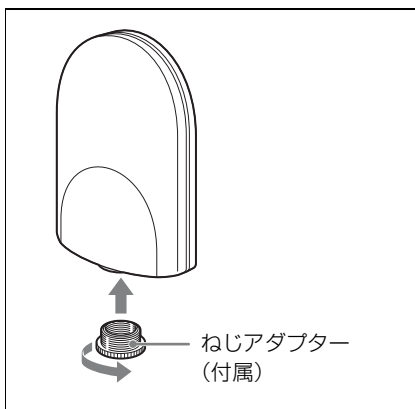
取り付け

マイクロホンスタンドに取り付ける

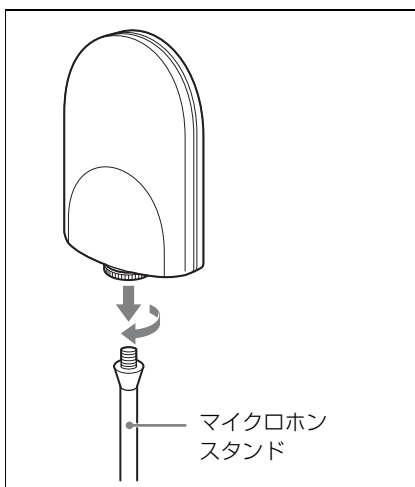
- 1** 付属のケーブルホルダーを本機に取り付ける。



- 2** NS $\frac{5}{8}$ インチ規格または W $\frac{3}{8}$ インチ規格のマイクロホンスタンドに取り付ける場合は、付属のねじアダプターを本機のマイクロホンスタンド取り付け穴にねじ込む。



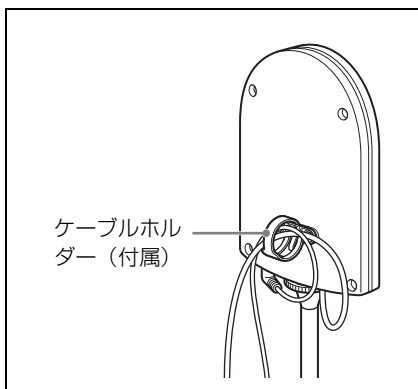
- 3** マイクロホンスタンドの先端に本機のマイクロホンスタンド取り付け用穴を合わせて差し込み、回して固定する。



- 4** ケーブル類を接続する。

◆ 接続について詳しくは、「電源および各機器との接続」(23 ページ)をご覧ください。

- 5** ケーブル類をケーブルホルダーでまとめる。

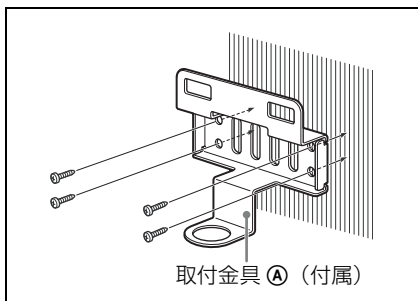


壁面に取り付ける

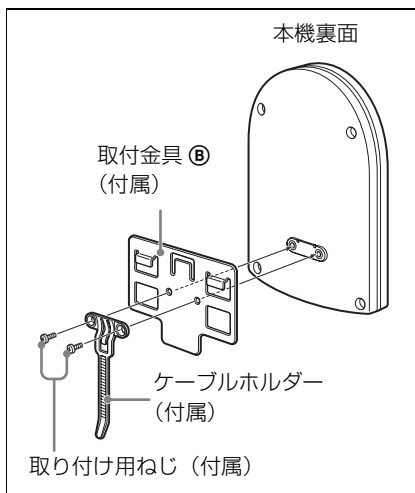
ご注意

LAN 端子に直接手で触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気から本機を保護するため、付属の取付金具や落下防止ワイヤーなどを金属製のものに取り付けて接地することをおすすめします。

- 1 付属の取付金具 ① を壁面にねじで固定する。



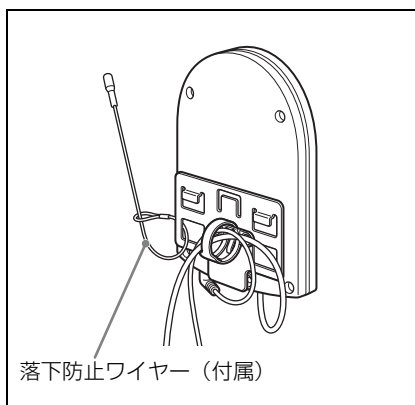
- 2 付属の取付金具 ② とケーブルホルダーを本機に取り付ける。



- 3 ケーブル類を接続し、ケーブルホルダーでまとめる。

◆ 接続について詳しくは、「電源および各機器との接続」(23 ページ)をご覧ください。

- 4 取付金具 ② に、付属の落下防止ワイヤーを巻きつける。

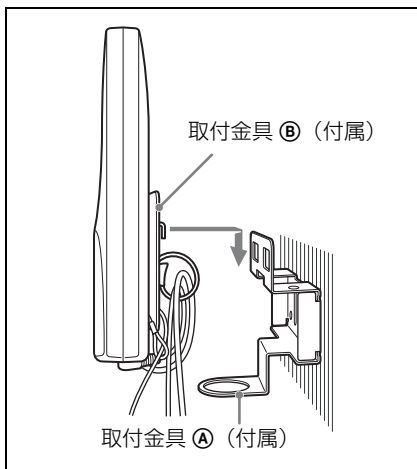


- 5 壁付けした取付金具 ① 上部の四角い穴 (2 か所) に取付金具 ② のフック (2 か所) を上からはめ込み、金具同

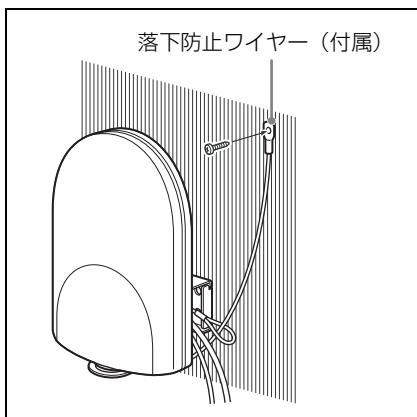
土の上端が合うまで取付金具 ② を押し下げる。

ご注意

ケーブル類を取付金具の間に挟み込まないように取り付けてください。

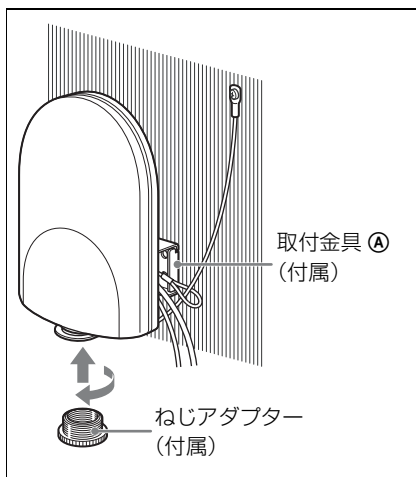


- 6** 落下防止ワイヤーの先端を、ねじで壁に固定する。



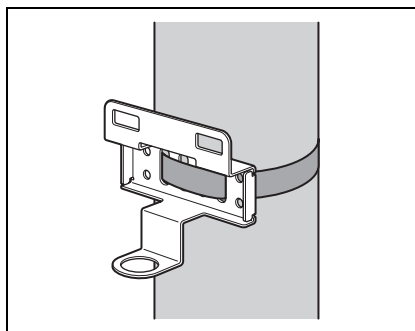
- 7** 付属のねじアダプターを本機のマイククロンスタンド取り付け穴にねじ

込み、取付金具 ① と本機を固定する。



キャットウォーク、ポール、照明ボタンなどに取り付ける

- 1** 付属の取付金具 ① を、取り付けたい場所に結束バンドなどで固定する。



- 2** 「壁面に取り付ける」の手順 **2 ～ 7** (13 ページ) を行う。

運用の準備

以下の手順で、NT リモートシステムの運用準備を行います。

1 RMU-01 セッティングツールを PC にインストールする。

- ◆ 詳しくは、付属の取扱説明書（冊子）をご覧ください。

2 RMU-01 セッティングツールをインストールした PC と本機を LAN ケーブルで接続する。

この段階では、DWR-R01D と接続する必要はありません。

3 RMU-01 セッティングツールで、本機の IP アドレスを設定する。

- ◆ 詳しくは、「RMU-01 セッティングツールの使いかた」（15 ページ）をご覧ください。

4 PoE ハブや PoE 給電器、DWR-R01D などと本機を接続する。

- ◆ 本機の電源供給について詳しくは、「電源および各機器との接続」（23 ページ）をご覧ください。
- ◆ システム構成例について詳しくは、DWR-R01D に付属の取扱説明書をご覧ください。

RMU-01 セッティングツールの使いかた

ご注意

お使いの PC 環境によっては、RMU-01 セッティングツールを起動するとファイアウォールにブロックされる場合があります。ブロックが有効になると NT リモートの運用に必要な LAN 通信が妨害されて正常に動作しませんので、RMU-01 セッティングツールに対してブロックを解除するようファイアウォールを設定してください。

ここでは、リモートコントロールユニット RMU-01 に付属のソフトウェア「RMU-01 セッティングツール」の使いかたを説明します。

表記上の決まり

- メニューまたはボタンをクリックし、その下に表示されるサブメニューを選択する操作を、「[メニュー（ボタン）名] > [サブメニュー名]」を選択する」と表現します。

例：File メニュー > New を選択する。

- キーボードのあるキーを押したまま別のキーを押すことを示すときは、キーの名前を「+」記号でつなぎます。

例：Ctrl + C キーを押す。

本文中の画面について

本文中の画面は、お使いの OS（オペレーティングシステム）により異なる場合があります。

準備

接続

RMU-01 と PC を LAN ケーブルで接続します。

PC との接続には、カテゴリー 5 以上で、100 m 以内の長さの LAN ケーブルを使用してください。

PC との接続方法によって、以下の LAN ケーブルを使用してください。

PC を直接接続する場合：クロスケーブル

ハブを介して PC と接続する場合：ストレートケーブル

◆ RMU-01 の接続について詳しくは、「電源および各機器との接続」（23 ページ）をご覧ください。

ネットワークの設定

RMU-01 および PC のネットワーク接続に関する設定を行います。

ネットワーク上で PC が他の機器を認識するためには、接続するすべての機器にホスト名、IP アドレス、およびサブネットマスクを設定する必要があります。

以下に、PC と RMU-01 を 2 台接続する場合の設定例を示します。

機器	IP アドレス	サブネットマスク
PC	192.168.0.200	255.255.255.0 ²⁾
RMU-01 (1 台目)	192.168.0.100 ¹⁾	
RMU-01 (2 台目)	192.168.0.101 ¹⁾	

1) RMU-01 の IP アドレスは、続き番号である必要はありません。

2) 通常は「255.255.255.0」に設定してください。

ご注意

ネットワークで接続される機器の IP アドレスは、すべて異なる値に設定してください。機器どうして設定が重複すると、ネットワーク上で正しく認識されません。

PC のネットワーク設定

下記の操作は、Windows XP での設定操作について説明しています。

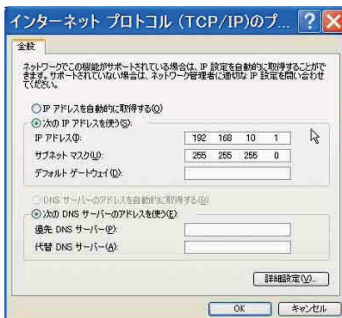
◆ Windows XP 以外の OS での設定については、お使いになる OS のヘルプをご覧ください。

- 1 スタート>コントロールパネル>ネットワークとインターネット接続を選択する。
- 2 「ネットワーク接続」をクリックする。
- 3 ローカルエリア接続アイコンを右クリックして、「プロパティ」をクリックする。
- 4 「インターネットプロトコル 4 (TCP/IP)」をダブルクリックする。

ローカルエリア接続のプロパティウィンドウが開きます。

5 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックする。

インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティウィンドウが開きます。



6 「次の IP アドレスを使う」をクリックし、IP アドレス欄に IP アドレスを入力する。

ご注意

IP アドレスは、ネットワーク接続する他の機器と重複しないように設定してください。

7 サブネットマスク欄に「255 255 255 0」と入力する。

8 「OK」をクリックして、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティウィンドウを閉じる。

9 「閉じる」をクリックして、ローカルエリア接続のプロパティウィンドウを閉じる。

インストール

- ◆ ソフトウェアのインストールについて詳しくは、付属の取扱説明書（冊子）をご覧ください。

起動と終了

起動するには

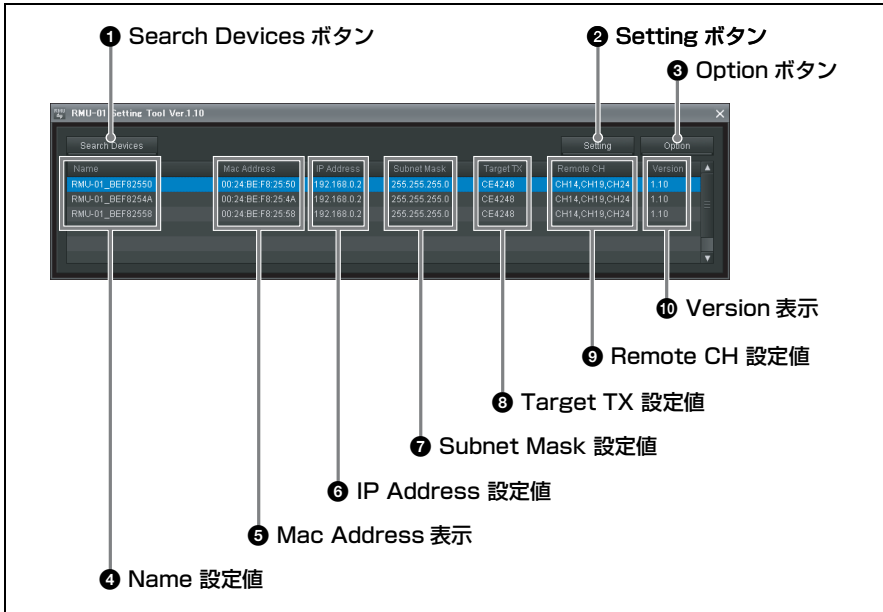
スタート＞すべてのプログラム＞ Sony
＞ Digital Wireless Microphone System
＞ RMU-01 Setting Tool を選択します。

終了するには

ウィンドウ右上のクローズボタン（×）をクリックします。

各部の名称と働き

ここでは、本ソフトウェアのメイン画面を説明します。



① Search Devices (検出) ボタン

同一ネットワーク内の RMU-01 を検出するときにクリックします。

- ◆ 詳しくは、「ネットワーク内の RMU-01 を自動検出する」(19 ページ)をご覧ください。

② Setting (設定) ボタン

機器の名前、IP アドレス、サブネットマスクなどの設定を変更するときにクリックします。

- ◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ)をご覧ください。

③ Option (自己診断) ボタン

RMU-01 の自己診断をするときにクリックします。

④ Name (名前) 設定値

同一ネットワーク内で検出された RMU-01 の名前設定を表示します。

初期状態では、工場出荷時に設定された 16 桁の名前が表示されていますが、本ソフトウェアで変更できます。

- ◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ)をご覧ください。

⑤ Mac Address (MAC アドレス) 表示

同一ネットワーク内で検出された RMU-01 の MAC アドレスを表示しています。1 台ごとに固有の MAC アドレスが与えられていて、変更はできません。

⑥ IP Address (IP アドレス) 設定値

同一ネットワーク内で検出された RMU-01 の IP アドレス設定を表示します。

初期状態では、工場出荷時に設定されたアドレス (192.168.0.2) が表示されていますが、ネットワークで接続される機器の IP アドレスは、すべて異なる値に設定してください。機器どうしで設定が重複すると、ネットワーク上で正しく認識されません。

◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ) をご覧ください。

⑦ Subnet Mask (サブネットマスク) 設定値

同一ネットワーク内で検出された RMU-01 のサブネットマスク設定を表示します。

初期状態では、工場出荷時に設定された値 (255.255.255.0) が表示されていますが、本ソフトウェアで変更できます。

◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ) をご覧ください。

⑧ Target TX (コントロール対象トランスミッター) 設定値

この機能は、RMU-01 のソフトウェアバージョン 1.10 以降および、本ソフトウェアのバージョン 1.10 以降の組み合わせで表示されます。

RMU-01 からリモートコントロールするトランスミッターに合わせて設定してください。

◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ) をご覧ください。

⑨ Remote CH (リモートチャンネル) 設定値

この機能は、RMU-01 のソフトウェアバージョン 1.10 以降および、本ソフトウェアのバージョン 1.10 以降の組み合わせで表示されます。

RMU-01 がリモートコントロールに使用するチャンネル設定を表示します。

初期状態では、工場出荷時に設定されたチャンネルが表示されていますが、本ソフトウェアで変更できます。

◆ 詳しくは、「本機の設定を変更する」(20 ページ) をご覧ください。

⑩ Version (バージョン) 表示

この機能は、RMU-01 のソフトウェアバージョン 1.10 以降および、本ソフトウェアのバージョン 1.10 以降の組み合わせで表示されます。

同一ネットワーク内で検出された RMU-01 のソフトウェアバージョンが表示されています。

ネットワーク内の RMU-01 を自動検出する

Search Devices ボタンをクリックすると、同一ネットワーク内にある RMU-01 の検出が始まります。

検出中は、経過を知らせるプログレスバーウィンドウが表示されます。

検出が終わると、それぞれの RMU-01 の情報が一覧表示されます。

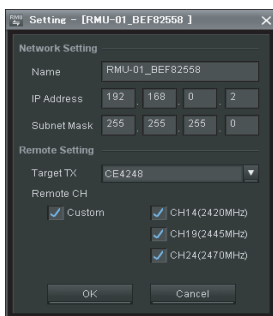
ご注意

複数の LAN ポート（有線・無線にかかわらず）を装備している PC の一部では、Search Devices ボタンをクリックしても LAN 接続された RMU-01 を検出できないことがあります。

その場合は、OS（オペレーティングシステム）の「ネットワーク接続」で、LAN や IEEE1394 接続などを含むすべてのポートをいったん無効にしてから、RMU-01 を接続しているポートのみを有効にしてください。その後、RMU-01 セットアップツールを再起動して自動検出を行ってください。

本機の設定を変更する

検出された RMU-01 のリスト表示で、設定を変更したい機器の名前をクリックして選択し、Setting ボタンをクリックすると、Setting ウィンドウが表示されます。



ネットワークの設定を変更する

機器の名前を変更するには

Name 欄に名前を入力します。16 文字まで入力できます。

以下の半角文字とスペースが使用可能です。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R
S T U V W X Y Z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ! # & \$ % + - = _ () []

IP アドレスを変更するには

IP Address 欄に数値を入力します。各欄に 3 桁まで入力できます。

サブネットマスクを変更するには

Subnet Mask 欄に数値を入力します。各欄に 3 桁まで入力できます。

リモートコントロールの設定を変更する

この機能は、RMU-01 のソフトウェアバージョン 1.10 以降および、本ソフトのバージョン 1.10 以降の組み合わせで表示されます。

コントロール対象トランスミッターを変更するには

Target TX に、RMU-01 からコントロールするトランスミッターの Model No. を選択して設定します。下表のトランスミッター Model No. 一覧より、ご使用になるトランスミッターに合わせて設定してください。

日本国内モデル

Model No.	Frequency band	Frequency
JAB/JB	FPU-1CH	770.250 - 778.875 MHz
	FPU-2CH	779.000 - 787.875 MHz
	FPU-3CH	788.000 - 796.875 MHz
	FPU-4CH	797.000 - 805.750 MHz
	B BAND	806.125 - 809.750 MHz

リモートコントロールチャンネルの設定を変更するには

Target TX の設定により、ご使用になるトランスミッターに合わせて最適なりモートコントロールチャンネルが自動選択され、Remote CH に表示されます。

また、Custom を選択することにより、自由にリモートコントロールチャンネルを選択することも可能です。
本機のリモートコントロールと、他の無線 LAN などのシステムとの間に電波干渉がある場合、Custom を選択しリモートコントロールチャンネルを選択することで、電波干渉を避けられる場合があります。

ご注意

Custom を使用する場合、ご使用になるトランスミッターに合った最適なりモートコントロールチャンネルの自動選択は、無視されます。この場合、トランスミッターの送信電波が、リモートコントロールに影響を与える場合があります。運用前に確認を行ったうえでご使用ください。

設定の変更が終わったら、OK をクリックします。変更が適用され、メイン画面に戻ります。

新しい設定が適切だった場合は、設定が完了した旨のメッセージが表示され、不適切な場合は、エラーメッセージが表示されますので、エラーメッセージの内容に従い設定内容を修正してください。

本機の設定を再度変更するには

Search Devices ボタンを押して検出された RMU-01 のリストを更新してから、リスト上の変更したい機器の名前をクリックします。

変更せずにメイン画面に戻るには

Cancel ボタンをクリックします。

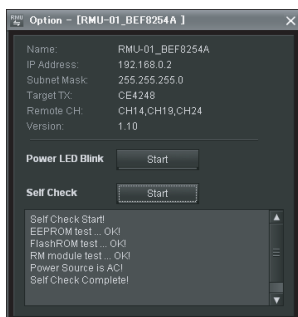
オプション機能

オプション機能の画面には2つの機能があります。

POWER インジケータ点滅：システムに複数台が接続されている場合に、特定のアドレスのRMU-01のPOWERインジケータを点滅させることで個々の判別を容易にする機能です。

自己診断：接続や設置が正しいにもかかわらず正しく動作しない場合などに、ハードウェアが正常かどうか自己診断を行って確認できます。

検出されたRMU-01のリスト表示で、自己診断を行う対象の機器の名前をクリックして選択し、Option ボタンをクリックすると、Option ウィンドウが表示されます。



POWER インジケータを点滅させるには

「Power LED Blink」の右側の Start ボタンをクリックします。

POWER インジケータが、0.1 秒間隔で約 5 秒間点滅します。

- ◆ 本機の状態と POWER インジケータの状態について詳しくは、「本機の状態と POWER インジケータの点灯・点滅について」(26 ページ)をご覧ください。

自己診断を行うには

「Self Check」の右側の Start ボタンをクリックします。

自己診断が始まり、以下の①～④の項目についての診断結果が表示されます。

項目	意味
① EEPROM test	EEPROM のテスト
② Flash ROM test	Flash ROM のテスト
③ RM module test	2.4GHz 送受信モジュールのテスト ¹⁾
④ Power Source is	電源供給方式 PoE ：電源は PoE AC ：電源は AC アダプター

1) 2.4GHz 無線通信が混雑していると、自己診断が正常に行われず、結果が「NG!」と表示されることがあります。トランスミッターやレシーバーの電源を切るか、接続を外した状態で自己診断を再実行されることをおすすめします。

①～③の診断結果が「NG!」と表示された場合は、RMU-01のハードウェアに不具合があります。お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

なお、LAN 通信にタイムアウトエラーが発生すると、診断結果が「NG!(ErrCode 0xFF)」と表示されます。この場合は、LAN ケーブルや電源が本機に正しく接続されていない可能性があります。接続と電源をご確認の上、自己診断を再実行してください。

メイン画面に戻るには

ウィンドウ右上のクローズボタン (×) をクリックします。

電源および各機器との接続

ご注意

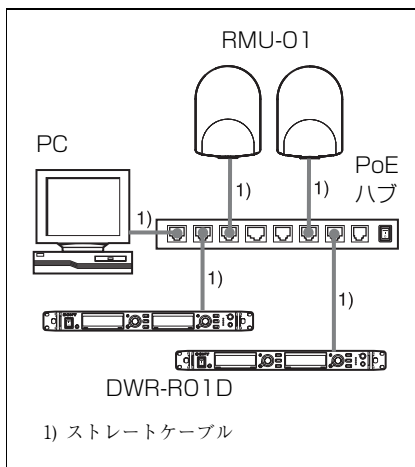
- 必ずカテゴリ-5以上のLANケーブルをご使用ください。
- 接続先の機器（PoE ハブやレシーバーなど）と本機とを接続するLANケーブルは、100 mを超えないようにしてください。
- リピーター機能を持たないPoE 給電器を中間に挟んでご使用になる場合は、接続先の機器（DWR-R01D やハブなど）から本機までのLANケーブルの長さの合計が100 mを超えないようにしてください。
- 自作したLANケーブルを使用すると、ネットワークが正常につながらない原因となります。市販のLANケーブルをご使用ください。

本機への電源供給の方法によって、接続のしかたと使用するLANケーブルの種類は以下のように異なります。

PoE 機器から電源を供給する

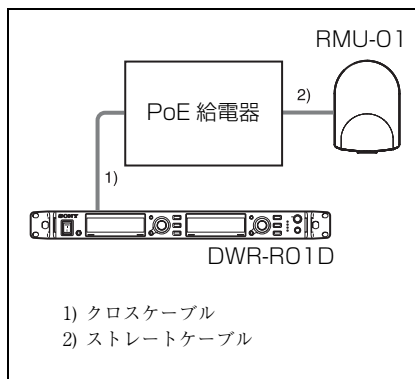
以下に、PoE 機器から本機へ電源を供給する場合の接続例を示します。

PoE ハブから電源を供給する場合

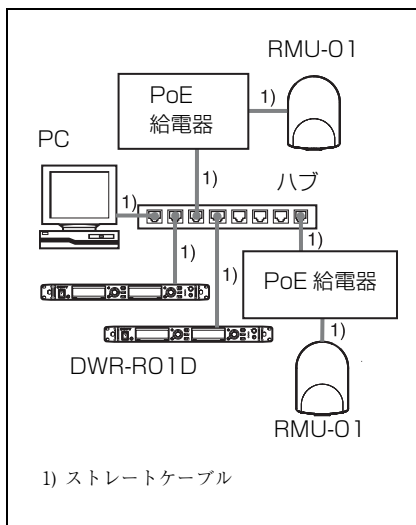


PoE 給電器から電源を供給する場合

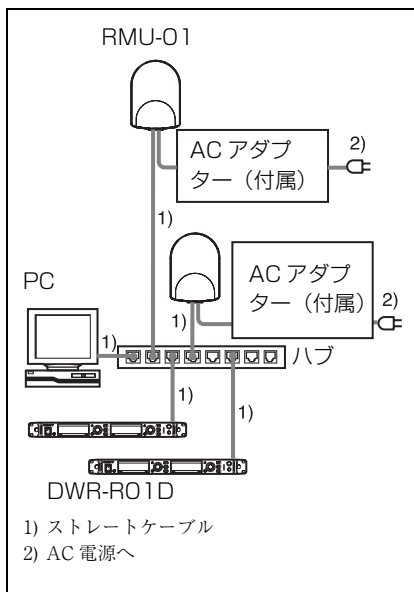
- PoE 給電器で電源を供給し、レシーバー（DWR-R01D など）またはPCのみを接続する場合



- PoE 給電器で電源を供給し、本機やレシーバーなど複数の機器を接続する場合

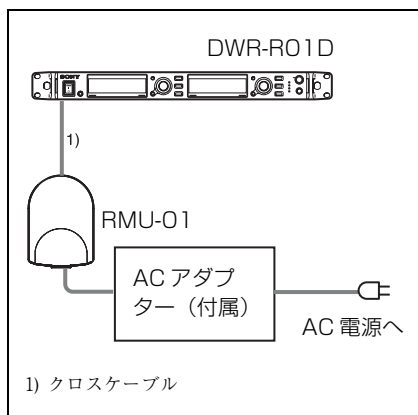


- 本機に付属の AC アダプターで電源を供給し、本機には複数の機器を接続する場合



AC アダプターから電源を供給する

- 本機に付属の AC アダプターで電源を供給し、本機にはレシーバー (DWR-R01D など) または PC のみを接続する場合



故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
ワイヤレスリモートコントロールができない。	トランスミッターとレシーバーがペアリングされていない。	ペアリングを行ってください。 ◆ペアリングの手順について 詳しくは、トランスミッター / レシーバーの取扱説明書をご覧ください。
	通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。	トランスミッターのコンディションレベルを確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。
	IP アドレスが正しく設定されていない。	付属のセッティングツールで、接続するすべての RMU-01 の IP アドレスを正しく設定してください。
	LAN ケーブルが正しく接続されていない。	クロス / ストレートの種別なども含め、LAN ケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。
	コントロール対象トランスミッターが正しく設定されていない。	付属のセッティングツールで、本機からリモートコントロールするトランスミッターのモデルナンバーを設定してください。
	他の無線 LAN などのシステムとの間で、電波干渉が発生している。	付属のセッティングツールで、本機のリモートコントロールチャンネルを制限してください。
複数設置した環境での運用で、ワイヤレスリモートコントロールに失敗することがある。	故障した RMU-01 が存在する。	付属のセッティングツールですべての RMU-01 が認識されるかどうかと、自己診断で問題がないどうかを確認してください。

症状	原因	対策
ネットワーク上の RMU-01 を自動検出できない。	複数の LAN ポート（有線・無線にかかわらず）を装備している PC では、OS の「ネットワーク接続」でポートの設定を変更しないと自動検出できないことがある。	OS の「ネットワーク接続」で PC のすべてのポートを無効にしてから、RMU-01 を接続しているポートのみを有効にしてください。その後、セッティングツールを再起動して自動検出を行ってください（19 ページ参照）。

本機の状態と POWER インジケータの点灯・点滅について

本機の状態	POWER インジケータの状態
① 起動中	0.2 秒間隔で点滅
② 通常動作時	常時点灯
③ RMU-01 セッティングツールでの「Power LED Blink」実行時	0.1 秒間隔で点滅
④ RM モジュールの初期化に失敗	2 秒間隔で点滅
⑤ 予期せぬエラー	1 秒間隔で点滅

なお、RMU-01 セッティングツールで IP アドレスを変更した直後にはハードウェアがいったん初期化されますので、POWER インジケータは 0.2 秒間隔で点滅します。

④ や ⑤ のように点滅している場合は、ハードウェアに不具合がある可能性があります。お買上げ店または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

使用上のご注意

電源供給に関するご注意

- LAN ケーブル経由で RMU-01 に電源供給 (Power over Ethernet) する場合は、必ず IEEE802.3af 準拠の電源供給機器 (PoE ハブや PoE 給電器) をご使用ください。
 - ◆ PoE ハブや PoE 給電器の使用方法について詳しくは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機に付属の AC アダプターと PoE 電源供給機器で同時に電源を供給した場合は、PoE 電源供給機器からの電源供給が優先されます。

設置上のご注意

- 本機を複数台同時使用する場合は、互いに 10 m 以上離してください。また、2.4GHz 帯を使用する無線 LAN アクセスポイントなどの機器とは、なるべく離して設置してください。
- 次のような場所や位置には取り付けないでください。
 - 天井や壁などの内装材の裏側
 - 窓、電気器具 (照明器具、電動機、エレベーター、配電盤など)、電子機器 (コンピューター、調光器、テレビ、テレビカメラなど) の近く
 - 人や機材の移動によって本機が破損するおそれのある位置
- LAN 端子に直接手で触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気から

本機を保護するため、取付金具や落下防止ワイヤーなどを金属製のものに取り付けて接地することをおすすめします。

運用上のご注意

- 本機は、単体では機能しません。DWT-B01、DWT-P01、DWM-01 などのソニーデジタルワイヤレスマイクロホン送信機の設定変更を行うには、DWR-R01D などの NT リモートシステム対応のレシーバーと接続する必要があります。
- NT リモートシステム運用の際には、レシーバーのフロントパネルからもトランスミッターの設定が可能です。

使用・保管場所

- 本機は周囲温度 0℃～50℃ の範囲で動作します (ただし、AC アダプター使用時は 0℃～45℃)。
- 本機を電力機器 (回転機、変圧器、調光器等) に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、本機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。

お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めに

コネクター部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。

- 表面やコネクター部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

本機使用上の注意

この機器のワイヤレスリモートコントロール機能で使用する周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要さない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の電源を再度入れなおすことにより使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、「ソニー業務用商品相談窓口」までお問い合わせください。

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

2.4DS1

主な仕様

無線方式	IEEE802.15.4 準拠
送受信周波数帯域	2405 MHz ~ 2480 MHz
アンテナ利得	2 dB
空中線電力	1 mW
リモートコントロール距離	最大約 10 m (1 台あたり)
LAN 伝送速度	10 M/100 Mbps (自動判別)
接続コネクタ	LAN 端子 : RJ45 型 8 極コネク ター (PoE 受電対応)
	AC アダプター端子 : EIAJ-type4
電源電圧	PoE 使用時 : DC 48 V AC アダプター使用 時 : DC 12 V
消費電流	PoE 使用時 : 50 mA 以下 AC アダプター使用 時 : 100 mA 以下
PoE 受電	IEEE802.3af 準拠 (モード A、B の両 方に対応)
許容動作温度	PoE 使用時 : 0 °C ~ 50 °C AC アダプター使用 時 : 0 °C ~ 45 °C
許容保存温度	- 20 °C ~ + 60 °C
外形寸法	107 mm × 151 mm × 30 mm (幅×高さ ×奥行き)
質量	約 300 g

付属品	AC アダプター (1) 取り付け金具 (2) ねじアダプター (2) 取り付け用ねじ (1 式) 落下防止ワイヤー (1) 取扱説明書 (1) CD-ROM (1) 保証書ブックレット (1)
推奨電源コード	部品番号 1-834-600-1X

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になって、電源や他の機器との接続をお調べください。

また付属のセッティングツールの自己診断機能を使用し、不具合がみられないかどうかをご確認ください。

- ◆ 本機の自己診断について詳しくは、セッティングツールのユーザーガイドをご覧ください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>